

・車椅子・白杖体験について

車椅子の舵取りの難しさと白杖の挑戦を通じて、私はバリアフリーの重要性を改めて実感しました。本学の校舎がバリアフリーで整備されていても、依然として困難な状況に直面することがありました。ちょっとした段差や坂、砂利などの凸凹した道では、車椅子の操作が思うようにいかず、横に逸れたり、動けなくなることがよくあります。また、白杖は地面の材質によっては滑らかに使えず、ザラザラした地面や段差では杖の先が跳ね返ることも経験しました。そのため、視界が真っ暗な中で一瞬のパニックに陥ることもあり、点字ブロックに止まらず、様々なバリアフリーの整備がいかに重要であるかを痛感しました。これらの体験を通じて、バリアフリーの捉え方が大きく変わりました。単に物理的な障壁を取り除くだけでなく、安心して移動できる環境を整えることが、どれほど大切であるかを深く理解しました。



・ともいきフェスティバル当日について

ともいきフェスティバル当日、私は小学校低学年から高学年くらいの子供の介助を主に担当していました。彼らの介助を行う中で、子供達の意外な姿を目にしました。彼らは恐怖心を抱くことなく、殆ど自らの力で車椅子や白杖を使い続け、見事にゴールを果たしてくれました。



また、白杖体験で私が彼らの介助をする際、つまづきそうな瞬間など、声掛けだけでは難しい局面があり、彼らの肩や腕を支えて移動することがありました。介助者の立場からも、どこがどう危ないのか、どうすれば危険を回避できるかを考えるきっかけを得られました。

